

事業活動実績報告書

施設名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 環境 言葉 ・ 表現
1 事業名	生きる力を育成するための馬介在教育
2 実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 戸外遊びで触れ合えるように、日中は遊び場の一角にある丸馬場へ放牧。小屋から丸馬場への馬移動は、気がついた子どもが行えるようにする。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ほぼ毎日、午前中は乗りたいと思った子が騎乗できるようにする。ひき馬で丸馬場の周囲をまわるだけでなく、子どもが一緒にひいたり、馬の前後でマラソンをしたりする姿まで見られるようになった。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 高齢馬は乗らずに散歩することがうれしいことを理解した子どもたちは、ほぼ毎日遊楽園を散歩させている。馬の気持ちを読みとりながら上手にコミュニケーションもとれるようになり、行きたい方向に歩かせられるようになってきた。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ポニーの世話をする。4歳児は、グループごとに交代でウンチの掃除、ブラッシングを経験する。この経験がベースとなり、ウンチがしてあるのを見つけると自ら気がつき掃除をする。ブラッシングも、毛並みにそってブラシをすると馬が喜ぶことに気がつき、自分より小さい子に教えてあげる姿も見られるようになる。	

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	高齢馬の健康が保たれるように、毎日ほかの2頭とは違う餌を準備し与える。水やえさの入れ物が汚れていることに自ら気がつき、きれいにする姿も見られるようになる。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	馬を近くで観察し、それぞれが興味をもったところを描く。4本足・しっぽ・長い首など特徴をとらえて描けている。園内にある草木花、園内にやってくる鳥などにも興味を示し、丁寧に観察する姿が見られるようになってきた。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

事業活動実績報告書

施設名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	生きる力を育成するための馬介在教育
2 実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	田植えに向けて、レンゲソウの草むしりを手伝うポニーのきらら。子どもの生活に、きららは欠かせません。		
	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	近くで触れ合ったり観察したりお話したり、かかわり方は子どもによって様々です。		
	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	背中に乗ることから馬とのかかわりが始まる子が多いですが、一定の距離を保ってじーっと見ている子もいます。		
	(取組日) 令和6年4月 日 ～ 令和7年3月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
放牧されてる場所に水がないことに気が付いて、バケツに水をいれて運んでいます。重いバケツは友だちと協力して持っています。			

3 取組概要	(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	高齢馬の健康が保たれるように、毎日餌づくりをしています。最初はクラスみんなで取り組み、徐々に役割分担されていきます。水やえさの入れ物が汚れていることに自らがつき、きれいにする姿も見られるようになってきます。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	一番小さいクラスの子たちも、毎日近くで触れ合います。怖がらずにブラシをしてあげることも、できるようになってきます。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	馬の背中に乗るだけでなく、一緒に歩いたり走ったり何周も回ります。体の軸がしっかりと育ち、乗り降りも自分できるようになってきます。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	雨の日も餌の事を気にかけてくれて、屋根のあるところに移動させて餌をあげるようになりました。	
	(取組日) 令和6年4月 日 ~ 令和7年3月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	最初は怖がっていた子も、徐々に慣れて体の力も抜けると一人で乗れるようになります。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書

施設名	熊野幼稚園		
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成		
事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現		
1 事業名	生きる力を育成するための馬介在教育		
2 事業概要	馬介在教育を通して、体験的な活動を行うほか、豊かな心を育む		
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 調教が施されているポニー3頭・馬飼育管理者・馬調教者・馬曳き手 安全に活動できるスペース ハンドラーは、園内に2名 園児の興味関心を引き出し、促すことができる教職員	
	事業後 3についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・人に対して学びの機会をもたらす馬の適切な管理と調教は必要不可欠。様々な子どもの動きを予測し、驚かないような調教をすることでより活動が深まった。 ・子どもと馬両方の心情や動きを読みとれる人がハンドラーとなり安全に事業を進めることができる。 ・教員の言葉がけ次第で、馬とのかかわりや興味を遮らずにすすめ、深めたり引き出したりすることができる。 ・馬の特性などを全員に周知した上で、活動スペースが明確になっていると、事故につながることなく事業を遂行することができる。 ・馬がもたらす教育的効果を教員が深く把握することで、今後更に内容を深めていきたい。	
計画時	4 事業のねらい	馬を幼児の間に介在させながら人と人との関係をよくしたり触ることによる安らぎを感じたりさせる。最終的には、心や身体の広い意味での健康を目指した活動とする。 <u>無関心な子が関心をもてる様に配慮する。</u>	
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・馬に触ることで、心が落ち着く。一方的なかかわりではなく馬の気持ちを考えながら触れ合うことを経験し身につけることで、友だちとのかかわりもスムーズになる。気持ちの切り替えや、相手の気持ちを受け入れることがスムーズにできるようになる。 ・責任をもって物事に取り組めるようになる。 ・無関心な子といってもいくつかのバターンある。型にあわせた教員の援助により、馬に関心を示すようになると、友だち関係にも変化がみられる。子どもに寄り添い変化を待つため、引き続きのとくみが必要である。 ・馬とのかかわりを通して、自信をもてるようになる。	
事業後	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ●戸外遊びで触れ合えるよう、日中は園児の遊び場の一角にある丸馬場へ放牧。(放牧時間は、天候により変える)特に新学期は、保育室付近を散歩させることで、不安が強い子が触れ合うようにする。 ●ポニーに騎乗する。 <u>毎日1～2時間程度、乗りたいと思った子が騎乗できるようにしている。</u> 新学期、新入園児には積極的に誘うが無理やり乗せることはしない。 注)使うポニーは、人間生活との共生関係が確立されている。複数の馬を同時に使用する場合は、馬同士の相性にも留意する。 ●ポニーの散歩をする。 <u>毎日、散歩をしたいと思った子ができるようにしている</u> ●ポニーの世話をする。4歳児が中心となり、グループごとに交代で毎日ウンチの掃除、ブラッシングを行う。5歳児は、高齢馬への餌の準備・餌づくり。	
	事業後 5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・時間を決めてクラスごとに実施する活動は、全員が興味を持つためのよい時間となっている。 ・興味を持った子が、より深い学びに発展していけるよう、知識をもった教員を育成し配置した。その結果、馬への親しみや信頼感が深まり、継続的なかわりを生み出すことができた。 ・言語表出行動や言語的対応により影響が出た。 ・引き続き、馬介在教育についての教職員の理解を深める必要がある。	

6 環境構成	●園児の馬への興味の度合いは様々である。長期的にはどの子にも効果が出るように工夫。<u>子どもが馬についての知識を増やせるようにする。</u> ●馬を介在させた教育活動を行うには、馬自身が健康であることが前提。 ●教員は、子どもの状況を理解し、子どもと馬のかかわりの架け橋となるように努める。 ●食べていい草の種類や形状、食べさせてはいけない草の種類や形状については管理を行うとともに、<u>子どもがわかるようにしていく。</u> ●毎日何回も乗る子もいれば、遠くから見ているだけの子もいる。遠くから見ている子に対しては、離れた場所での馬とのかかわりを認める声掛けを忘れずにする。 ●よほどの理由がない限り、卒園までには一度はまたがるように促す。乗るのが怖い子や苦手な子は、無理に乗せることはしないが無関心にならないように配慮する。
事業後	6についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・定期的に、馬についての知識を伝えた。その結果、子どもの観察する眼が育まれ、馬に乗ったり触れたりするだけではなく、馬の様々な部位に興味をもつようになった。飼育しているウサギやカメ、野鳥、草木花にも興味の広がりが見られた。 ・餌づくりを通して、量感覚が養われていった。 ・怖いかかわりたいという子は、単発ではなく継続したかかわりが自信につながり面白さを感じることができていた。
7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 馬のもつぬくもりや安らぎが好作用することで、触覚が発達 騎乗することで高さや温もりを感じ、振動やリズムに脳が刺激される ポニーにも色々な感情(嬉しい・おこる・眠い・お腹が空いた)があり、様々な形で表していることに気がつき、気持ちが通い合う喜びが生まれる 自尊心が高められる 散歩の途中で気持ちが他に切り替える手を持つと馬が勝手にどこかへ行ってしまいうため、最後まで責任をもってするようになる。 自分より大きな動物が自分の後ろからついてくる(もしくは、自分の横を歩く)ことは、緊張したり気分が高揚したり胸が高鳴ったりと子どもにより様々な感じ方をする。<u>教員は、その気持ちに寄り添い、共感する。</u>
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 当初期待した幼児の姿に加え、予想以上に子どもの心の育ちが進んだ。感受性が弱い子の変化が大きく、相手の気持ちを汲むこと、自分の気持ちを表現することが上手になった。子どもにとって、馬は友だちという位置づけになることがわかった。
8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 馬は、馬に関心を寄せた全ての園児に学びの機会をもたらす重要な存在であるということがわかった。これについては、『馬がもたらす教育的効果』として詳しくまとめた。今後は、馬との触れ合いが保護者に対してどのような効果があり、園での子どもの姿にどのような影響を与えていかも検証していきたい。